

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

須 田 瑞 穂

○愛知県刈谷市

高齢者支援の取組について

【所 見】

刈谷市の高齢者を取り巻く現状は、人口は増加しているものの、2030年度をピークに、人口が減少していくことが予測されており、また65歳以上の人口は2030年以降も引き続き増加し続けるという推移と推計がされており、高齢者に対する引き続きの取組が必要であるとのこと。また、刈谷市の高齢化率は、全国、愛知県と比較して低い割合で推移しているが、2020年は、4.8人に1人の割合の高齢化比率が、2040年には、3.7人に1人が高齢者となるということも推計されている。さらに、要支援・要介護認定者の状況についても、2002年には2,063人だったものが、2022年には5,309人となり、2.6倍に増加し、今後も、要支援・要介護認定者共に引き続き増えることが予想されている。そのような状況の中で、刈谷市では配食サービス事業を社会福祉協議会の事業として、平成5年10月から試行的に開始され、平成8年4月から市が社会福祉協議会に委託する形で正式に開始された。その後、配食ボランティアによる配達、平成13年度には、週1回から週3回への増加、平成17年には、調整食の導入などを経て、現在の定期的に自宅に食事を届ける一般食と、病気療養などで食事に配慮が必要な高齢者の自宅に、主治医などの指示による食事を届けるとともに、定期的に栄養相談を行う調整食の2つの配食サービスを提供している。本事業の成果と課題については、利用者のアンケート等を取り様々な検証をしているが、現在の所、安価に食事（弁当）を配達してもらいありがたい。また、見守りがあり安心できるといったポジティブな意見がある一方で、食事内容の種類が少ない、メニューに飽きがるなどのお弁当の内容に対するマイナスな意見の他、配食回数を増やしてほしい、手渡しではなく置いて行ってほしいなどの意見をいただいているとのこと。2点目の事業として、刈谷市の高齢者交流プラザ（高齢者福祉センター「ひまわり」）についての事業の取組についても話を伺い充実した視察であった。委員から、配食サービス事業については、事業の概要、事業の始めた経緯、事業の成果、課題、またどのよう

な予算で事業を行っているのか。高齢者交流プラザについては、具体的にどのような事業を行っているのか等の積極的な質疑応答がなされた。今回の視察を本市の高齢者対策に参考となる部分は、積極的に取り入れて行う必要があると感じた良い視察となった。

○愛知県豊田市

衛星画像とAIを活用した漏水対策について

【所見】

豊田市は、さらなる効率的かつ効果的な管路更新を目指して、AIを活用した経年管整備事業として、令和2年度に、シリコンバレーの企業が開発した水道管劣化予測ツール（AI劣化予測診断ツール）を導入した。本ツールは、水道管路に関するデータ（管財費、使用年数、漏水履歴等）と、独自に収集した1,000以上の膨大な環境変数を含むデータベース（土壌、気候、人口等）を組み合わせ、水道管路の破損確率を高精度に解析した結果を納品するものである。また、平成29年度に統合した旧簡水地区（旭、足助、稲武、小原、下山）の旧地区の漏水箇所データを増やし、管路の劣化予測精度を向上させたいという考えから、業者からヒアリングし、パイロット調査価格で安価ででき、2週間で漏水可能性区域（直径200m）を判断可能となる説明を業者から受け、漏水調査業務委託内容の変更し事業を行うこととなった。この事業の効果とすると、調査範囲の絞り込みにより効率的な漏水調査が可能となった。また課題とすると、路面音聴調査に時間を要することや、価格（予算）の問題、さらには漏水有無の最終判断として、人間が耳で行っているため、人（経験値）によって判断にばらつきができてしまう等多くの課題があるとのこと。新たな取組として、豊田市上下水道局は、JAXAベンチャーである(株)天地人、フジ地中情報(株)として宇宙ビックデータから高精度で漏水可能性区域を判定する実証実験を開始した。この取組は、実証実験では、天地人が世界中から収集する衛星画像を含む高精度、高分解能な地球観測衛星データ（宇宙ビックデータ）を基に、AI技術を活用して分析、解析のうえ漏水可能性区域の判定を行い、漏水調査を実施、その調査結果に基づき、漏水可能性区域の判定精度の向上を図るもので、さらなる漏水調査業務の効率化を目指しているとのこと。委員からは、現時点では、衛星画像を

活用した地下漏水調査の導入事例は、全国的に見てもまだまだ少ないと理解している。このことから、本市においては、衛星画像を活用した地下漏水調査がどの程度有用な調査方法であるのか分かっていないのが現状であるが、従来の調査方法と衛星画像を活用した調査とを比べた場合、調査に要した時間と費用をどの程度削減できたのか。また、漏水箇所の的中精度はどの程度なのか。的中精度をどのように評価しているのか等、活発な質疑応答がなされ大変有意義な視察となった。本市でも取り入れられる部分は積極的に取り入れ、本市の水道事業が市民にとってさらにプラスになるよう議会としても提言していきたいと思う。